新たな知財エコシステムの構築へ！「AI」、「スタートアップ」、「人材・育成」を考える

Toshiya Watanabe　https://researchmap.jp/toshiyaW

渡辺 治 氏：（独）工業所有権情報・研修館理事長：10月で現在の体制となって20周年を迎える工業所有権情報・研修館に本年4月新理事長として就任
前職は東京工業大学教授、理事副学長、専門は情報工学

清野 千秋 氏：特許庁 審査第三部 バイオ医薬技術担当室長：
大学への出向経験や特許庁の企画調査部門の経験などから、大学における知財戦略や産学連携、スタートアップ支援などに詳しい

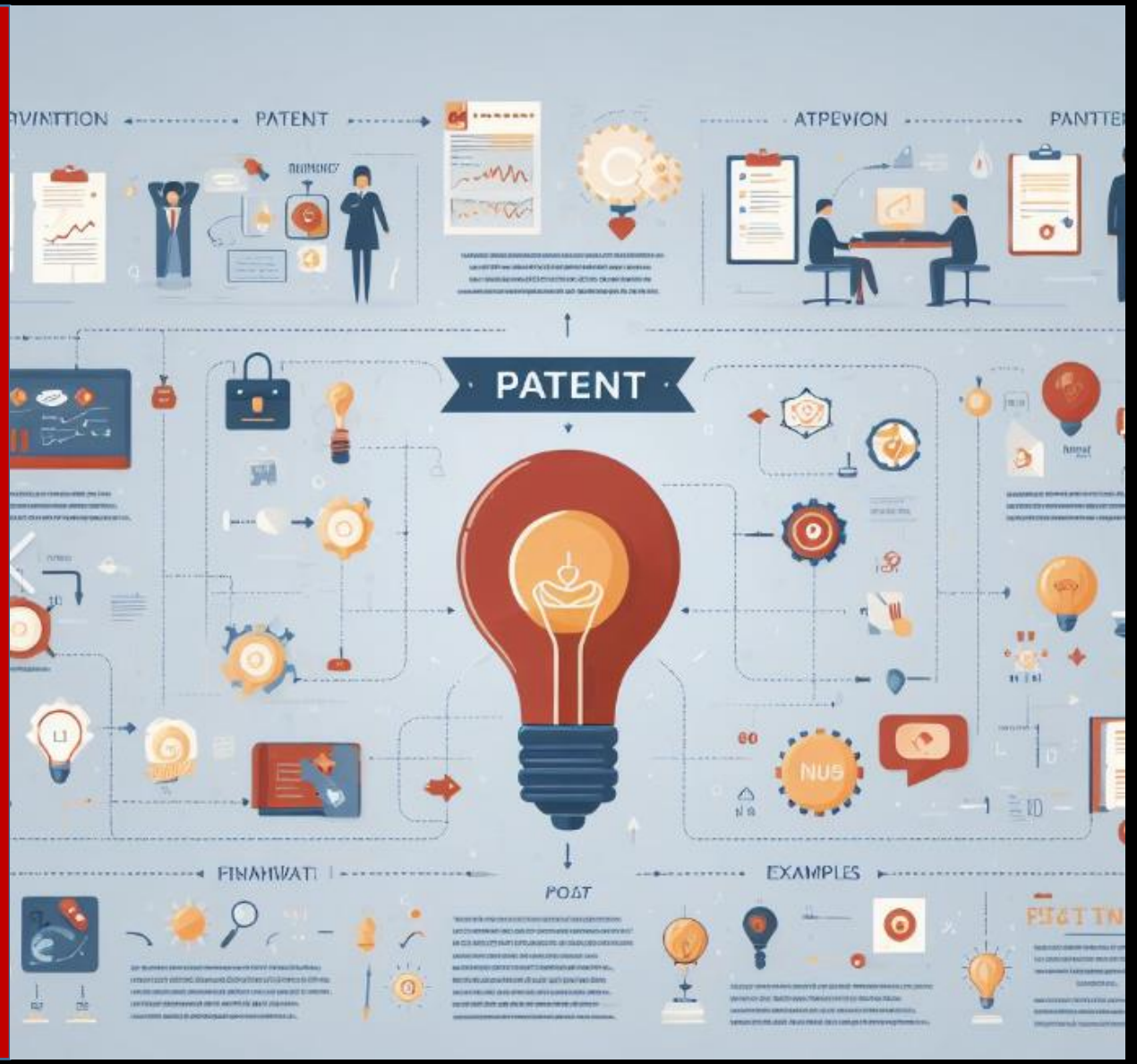
渡部俊也（東京大学未来ビジョン研究センター教授）

ディスカッションポイント

- ✓「AI」、「スタートアップ」、「人材」をテーマに、AIはどこまで進化し、発明、特許権との関係はどうなっていくのか。
- ✓知財の専門家はAIをどのように活用するようになるのか
- ✓今後重要な課題となる人の移動に伴う知財のオーナーシップ
- ✓大きな変革期にある知財人材育成

などについて議論します。

スタートアップにおける知財支援

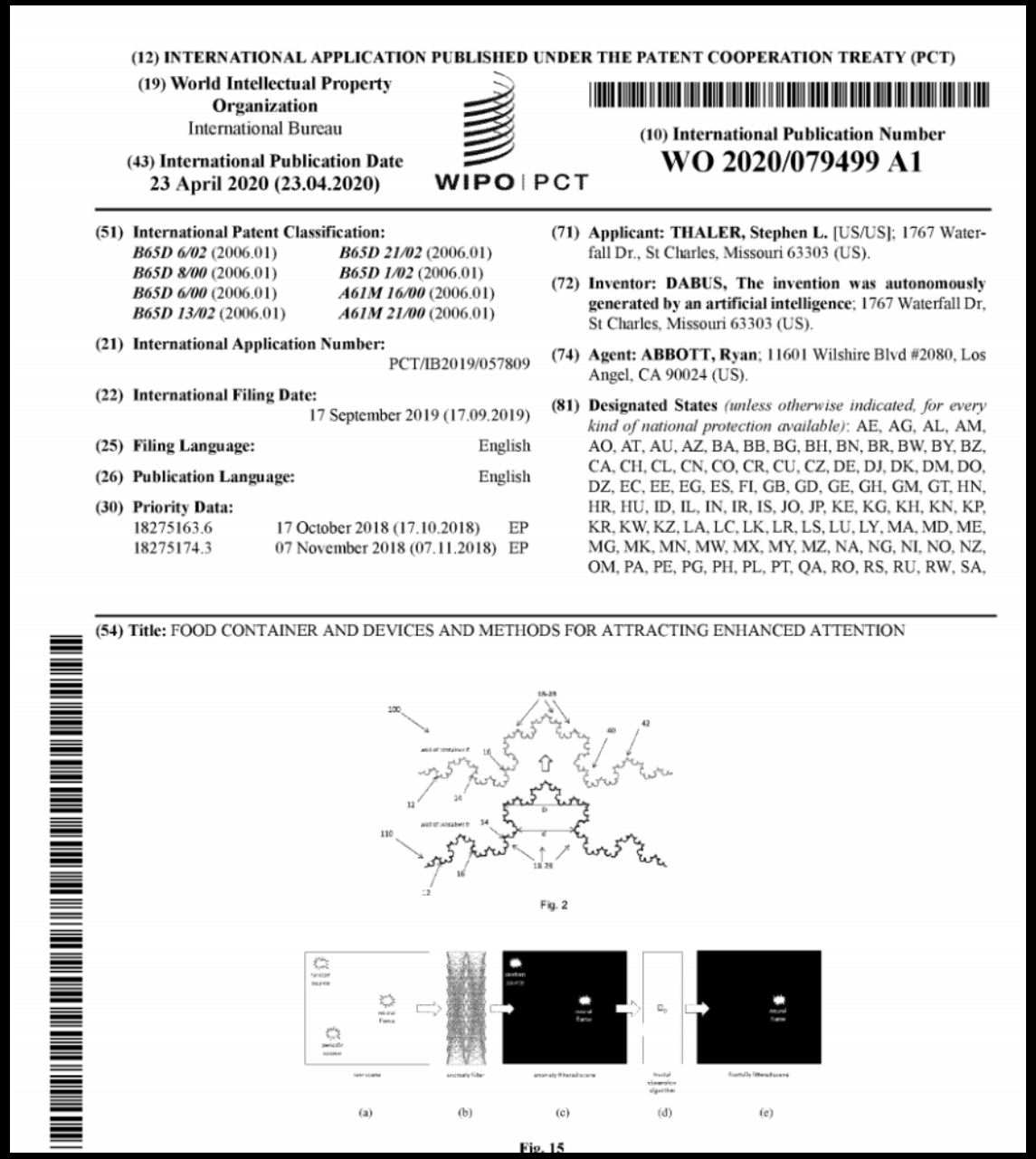


WE AT
WELL-BEING
ECONOMY
ACCELERATOR
TOKYO

Anders Soh
Tomoko Inoue
Naoko Okumoto

WELL-BEING
ECONOMY
ACCELERATOR
TOKYO
[Hosted By] WE AT [Co-hosted By] UTokyo Institute for Future Initiative / Office of Institutional Advancement and Communications, Kyoto University / Tokyo Medical and Dental University Institute of Research Innovation Open Innovation Center
WE AT
Challenge 2024
Registration for global pitch competition WE AT CHALLENGE 2024 has finally begun!
Aiming to be Asia's largest Well-Being festival, we will open our doors to the world.
Application deadline 2024.8.31 SAT
Winner prize: 10 million yen for each Track *Non-Equity
Connecting with WE AT ecosystem players
To Japan / To Overseas expansion support
Introduction on WE AT website
Student awards and other prizes
WELL-BEING
ECONOMY
ACCELERATOR
TOKYO
WE AT is a new innovation ecosystem in which academia, government, companies, and investors collaborate globally to support startups that solve social issues.
WE AT aim to accumulate natural capital, human capital, and social capital, which form the basis of a well-being economy, keeping in mind the categories of the well-being framework proposed by the OECD.
We will support startup businesses and projects of companies and research institutions that contribute to accumulation.

AIと知財に関して



(12) INTERNATIONAL APPLICATION PUBLISHED UNDER THE PATENT COOPERATION TREATY (PCT)

(19) World Intellectual Property Organization
International Bureau

(43) International Publication Date
23 April 2020 (23.04.2020)

WIPO | PCT

(10) International Publication Number
WO 2020/079499 A1

(51) International Patent Classification:
B65D 6/02 (2006.01) *B65D 21/02* (2006.01)
B65D 8/00 (2006.01) *B65D 1/02* (2006.01)
B65D 6/00 (2006.01) *A61M 16/00* (2006.01)
B65D 13/02 (2006.01) *A61M 21/00* (2006.01)

(21) International Application Number:
PCT/IB2019/057809

(22) International Filing Date:
17 September 2019 (17.09.2019)

(25) Filing Language: English

(26) Publication Language: English

(30) Priority Data:
18275163.6 17 October 2018 (17.10.2018) EP
18275174.3 07 November 2018 (07.11.2018) EP

(71) Applicant: **THALER, Stephen L.** [US/US]; 1767 Waterfall Dr., St Charles, Missouri 63303 (US).

(72) Inventor: **DABUS, The invention was autonomously generated by an artificial intelligence**; 1767 Waterfall Dr, St Charles, Missouri 63303 (US).

(74) Agent: **ABBOTT, Ryan**; 11601 Wilshire Blvd #2080, Los Angel, CA 90024 (US).

(81) Designated States *(unless otherwise indicated, for every kind of national protection available)*: AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JO, JP, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA,

(54) Title: FOOD CONTAINER AND DEVICES AND METHODS FOR ATTRACTING ENHANCED ATTENTION

Fig. 2

(a) (b) (c) (d) (e)

Fig. 15

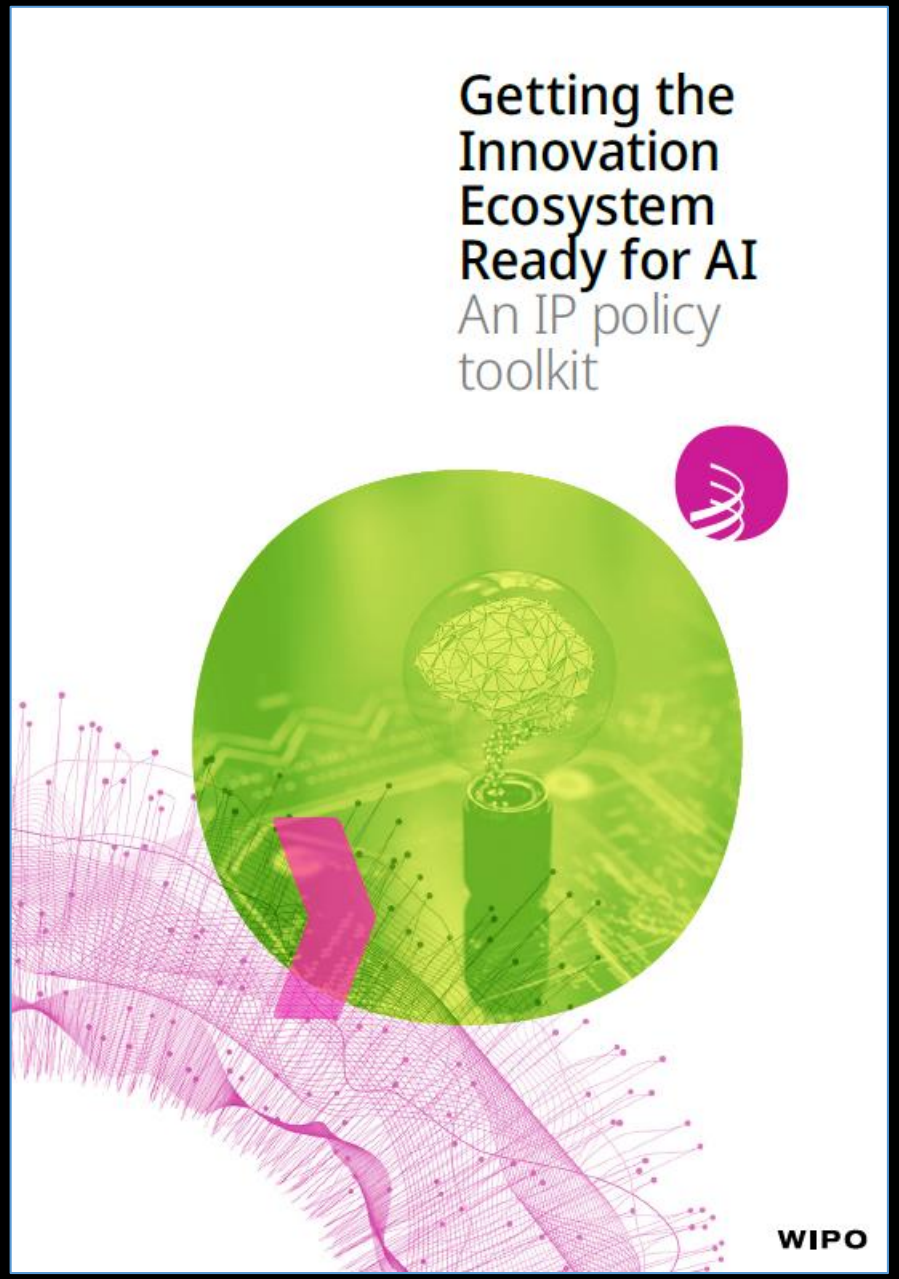
DABUSは**スティーブン・ターラーによって**作られた人工知能（AI）システム

AIによる自律的な発明・創作を保護することを目的として、AIシステムであるDABUSを発明者とする特許出願が18の国（地域）に出願された

この結果、DABUSの発明者適格性については、主要な国及び地域における判断の状況について否定されている

日本でのDABUS出願

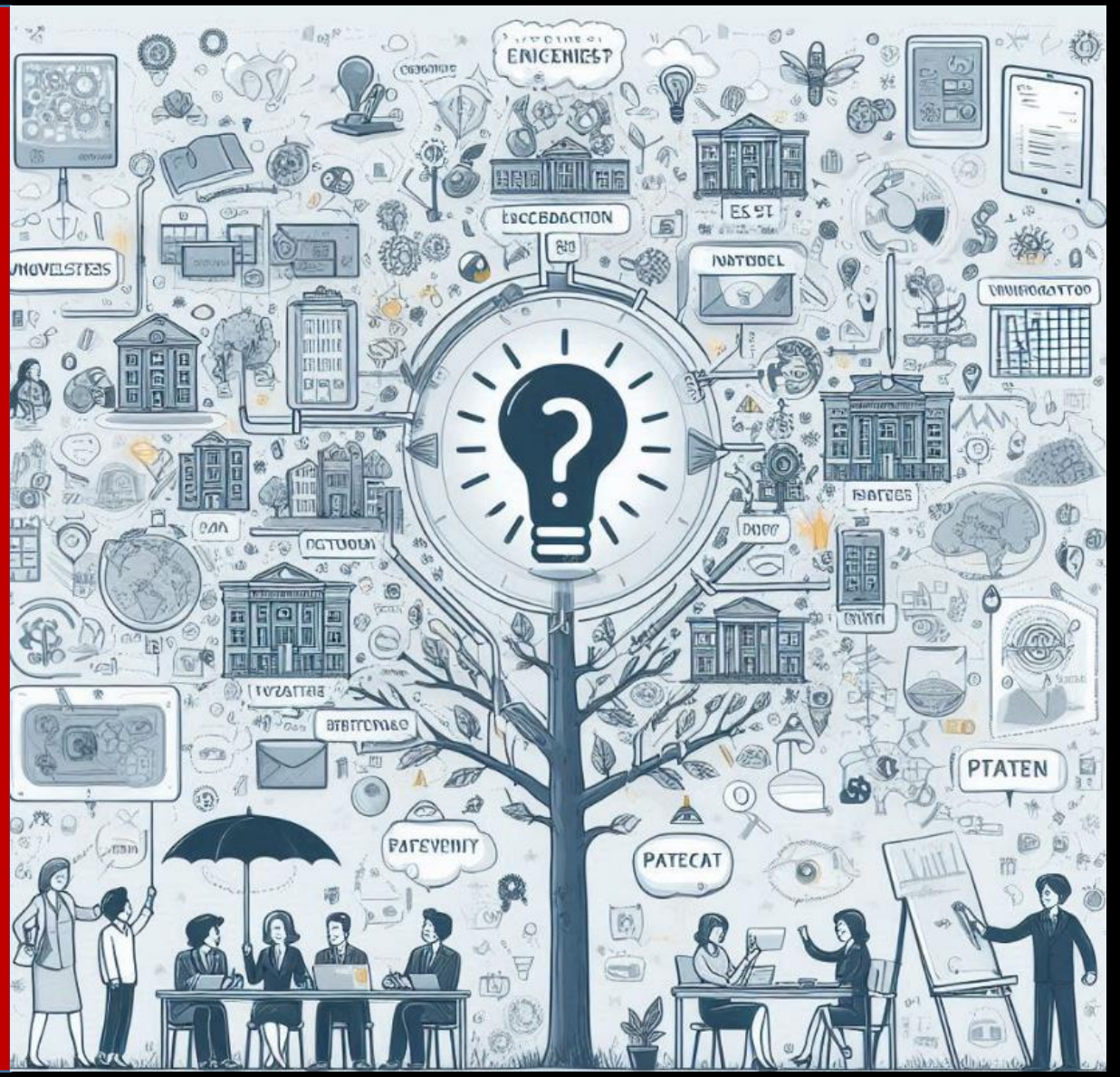
- 令和6年5月16日、東京地方裁判所（令和5年（行ウ）第5001号）
- 「特許法に規定する『発明者』は、自然人に限られるものと解するのが相当である」と判示
- ただし今後の制度検討の可能性について含みをもたせており「AI発明に係る制度設計は、AIがもたらす社会経済構造等の変化を踏まえ、国民的議論による民主主義的なプロセスに委ねることとし、その他のAI関連制度との調和にも照らし、体系的かつ合理的な仕組みの在り方を立法論として幅広く検討して決めることが、相応しい解決の在り方とみるのが相当である」としている。



AIがまだ自律的に発明する能力を獲得していないとしても、上記のような複雑な問題を考えると、政策立案者は将来の選択肢について今から検討を始めるのが賢明である。しかしAIが生み出す発明を一般的な法的定義に当てはめることは、将来の政策目標を達成するためのイノベーション・エコシステムを設計するための最善のアプローチを法律家に提供することにはならないかもしれない。このプロセスを慎重に進めることは不可欠だが、AI技術の進化のスピードが速いことから、迅速かつ速やかに作業を進めることが肝要となる。・・・・・・
政策立案者が様々な選択肢を検討する際には、基本に立ち返り、特許制度の根本的な経済的・社会的目標を思い起こすことが助けになるだろう。特許法は、発明者の経済的利益と社会の公益の双方をバランスさせる形で、発明性にインセンティブを与え、それに報いるように設計されている。AIが生み出した発明を保護するための選択肢を検討する上で、知的財産法全般の正当性、そして政策目標が重要である。

AIが生み出す発明に備えるために、政策立案者が取りうる行動（31p）

スタートアップとAI時代
発明者と権利帰属



元理研高橋氏、iPS特許で和解　理研やヘリオスなどと（2024年5月30日 日経新聞から）

理化学研究所の元研究者、高橋政代氏が代表を務めるビジョンケア（神戸市）などは30日、iPS細胞関連の特許で理研などと和解したと発表した。同特許はiPS細胞から網膜細胞を製造する特許で、理研やバイオ新興のヘリオスなどが特許権を持っているが、高橋氏はビジョンケアなどでも特許を使えるよう2021年に国に「裁定」を請求していた。